

飼料作物奨励品種選定試験

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

市販されている飼料用作物の種子について、どの品種が鳥取県の栽培環境に適したものであるかは、種苗会社の栽培データだけでは判断しづらい。そこで、農家に推奨する「奨励品種」を選定するための基礎資料とするために、飼料作物の中でも県内で栽培面積の多い飼料用トウモロコシ及びイタリアンライグラスについて、3か年の反復試験を行い、生育特性及び収量性について調査した。

(2) 情報・成果の要約

1) 飼料用トウモロコシ

2018年度に3か年の試験が終了した2品種のうち1品種について、総合評価成績の平均点が標準品種と同等の成績であった。

2) イタリアンライグラス

2018年度に3か年の試験が終了した1品種について、乾物収量の平均が標準品種と同等の成績であった。

2 試験成果の概要

(1) 飼料用トウモロコシ

2018年度に3か年の反復試験が終了した2品種（‘スノーデントおとは’ ‘KD671’）の総合評価成績（収量性、耐病害虫性及び耐倒伏性等を数値化して評価）は、‘KD671’が3か年の平均点において標準品種と同等の成績であった（表1）。このうち‘KD671’が乾物収量、TDN収量ともに標準品種を大きく上回る結果となり、収量性に優れていた（図1、2）。以上から‘KD671’は本県の栽培環境に適した有望な品種であると考えられる。

2018年度の単年度の収量成績については乾物収量、TDN収量ともに2品種（TX1334、KD671）が標準品種を上回った（図3～6）。

表1 総合評価成績 単位：点（100点満点）

早晩性	系統品種名	2016年度	2017年度	2018年度	3カ年平均
早生品種	標準品種 (P1543, 34B39, KD680)	78	83	83	81.3
	KD671	74	85	85	81.3
中晩生品種	標準品種 (P3470, P2023)	61	70	76	69.0
	スノーデントおとは	70	76	53	66.3

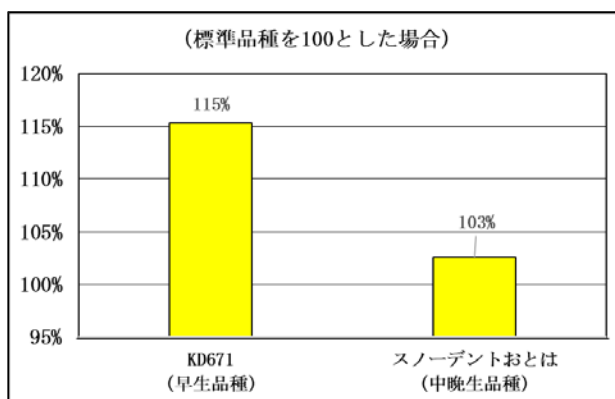


図1：乾物収量の対標準品種比

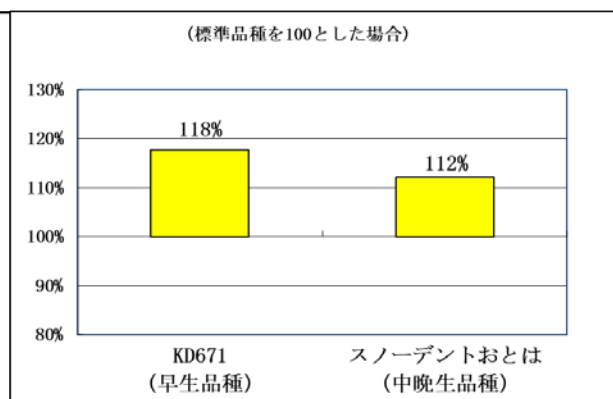


図2：TDN収量の対標準品種比

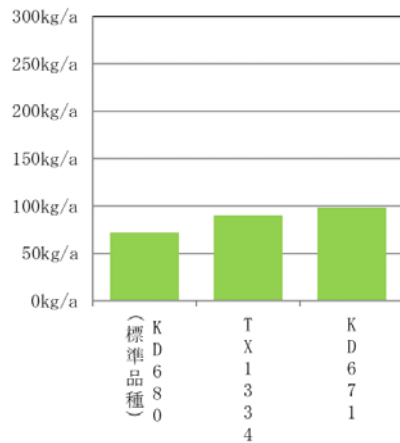


図3 早生品種乾物収量

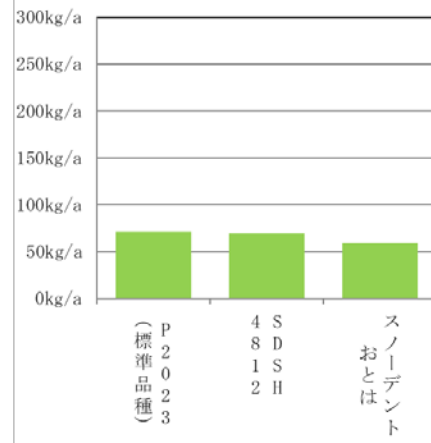


図4 晩生品種乾物収量

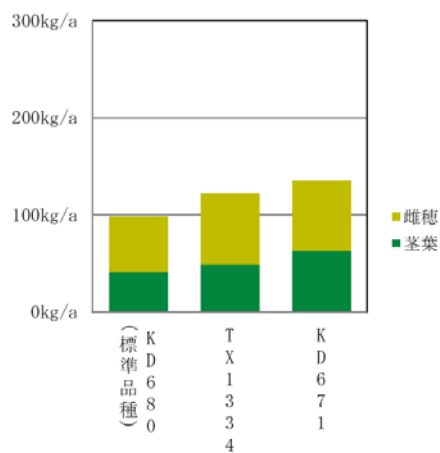


図5 早生品種TDN収量

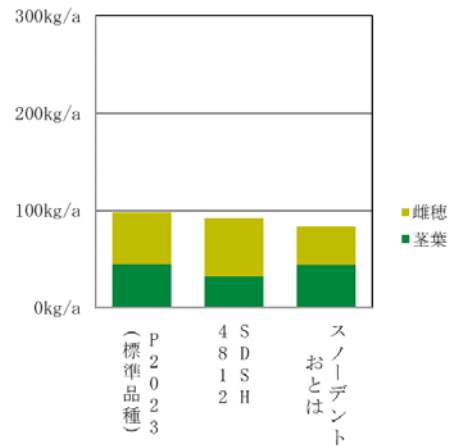


図6 晩生品種TDN収量

(2) イタリアンライグラス

2018年度に3カ年の反復試験が終了した‘さつきばれEX’の乾物収量の3ヶ年の平均が標準品種と同等であった(図7)。

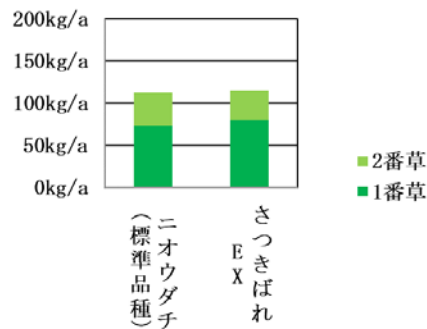


図7 乾物収量

3 利用上の留意点

試験圃場の土壌は黒ボク火山灰土壌であり、標高は40mである。

KD671、さつきばれEXは鳥取県奨励品種選定会議に諮った結果、県の奨励品種に選定された。

4 試験担当者

〔酪農・飼料研究室 研究員 米原 尚子〕